
死に染まる空から降る彩りの雨

嘩月 - ka「d/z」uki -

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

死に染まる空から降る彩りの雨

【Nコード】

N3725N

【作者名】

嘩月・k a r d / z r u k i

【あらすじ】

とてつもなく冷えた世界。

その檻の中で魂さえも囚われていると歎いた。

気が付けば此処に生まれ、いつかは死んで消え去ってしまう。

今更な事なのに、考えれば考える程、何故か恐くなった。

自分証拠もやがて忘れ、知らない間に消されてなくなってしまつと泣いた。

どれだけ誰彼に想い伝えようと、誰彼さえも空へ。

春、夏、秋、冬。 雨。

降ってくれば降ってくる程、何故か悲しくなった。

瞼閉じて、耳を塞ぐ。

未完成の無が見えた。

光消して、世界へ不参加

世界が廻っても、生き残れやしない。
なら、最初から生まれたくなかった。
けど、死にたくない。消えたくない。

無気力な侘で、無駄に時間消費。

ほら、何も感じなくなっていた。

ただ、我が侘で、人に合わせて。

色を失ってしまった今。

何もかも意味がなさそうな物質で溢れてるばかりだ。

どうせ変わらないからと、大人しく人を演じよう。

それでも彩る雨、降ってくれば降ってくる程、何故か悲しくなった。

瞼閉じて、耳を塞ぐ。

未完成の無が見えた。

光消して、世界へ不参加

大事な人が泣いている。

季節感も無くやってくる雨。

褪せて、冷めて、意味を無くした死が鼓動し始める。

晴れ？

嫌。

晴々……。

影を伸ばし、世界へ再参加

想いが泡となり、弾け飛び消える。

それで虚しくなって泣いていた。

けど、空の為に。空の為に叫んで……。

凍えてしまう程、ずっと、今も淋しい。

けど、光差して泣かなくなった。

でも、時折で、時折でいいから、一緒に泣いてほしい。

それでも今は、言えなかったサヨナラを告げよう……。。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能たんのうしてください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n3725n/>

死に染まる空から降る彩りの雨

2010年10月9日15時08分発行